

人間関係論

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野、教養教育センター		
対象学年	1	区分・時間数	講義 15 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

人間関係は人間としての存在に備わる基本的条件の一つである。「どうすれば好ましい人間関係を築くことができるか。」人はその方法を日々模索し、人間関係を良好に保つためにコミュニケーションを続ける努力をしている。人間関係の基本は「自分自身を知る」ことである。一般的に、人は他者に照合することによって自分自身を認識する。また、人は他者の存在によって自分の社会的役割を認識する。他者との関係で構築された人間関係は様々な社会的相互作用の原因となり、また結果ともなる。

人が人に対して行う援助活動では、常にその関係性が基盤に置かれることになる。保健医療の現場では、専門職が職務をスムーズに遂行する基盤として良好な人間関係を構築することが不可欠である。また、対象者とどのような人間関係を構築できるかが援助の質を左右することにつながる。医療の質や倫理が問われている今、医療人として人間関係のあり方やその特徴を理解しておくことは重要な学習課題である。良好な人間関係を構築するための基礎を修得することを期待する。

・教育成果（アウトカム）

人間関係に関する基礎知識を理解し、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、医療人としての職務を遂行する際に良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。
(ディプロマポリシー：1,4,5)

・到達目標（SBO）

1. 自己概念を理解する（☆）。
2. 対人認知に関わる要因を説明できる（44）。
3. 社会的相互関係について説明できる（☆）。
4. 集団意志決定について説明できる（49）。
5. リーダーシップについて説明できる（☆）。
6. コミュニケーションの構成要素と過程を説明できる（41、42、43、47、48、49）。

・ 講義日程

【講義】

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/1	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>イントロダクション 【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係論を学修する意義について説明できる。 2. 社会的促進と社会的手抜きについて説明できる。 3. 人間関係を改善するスキルについて説明できる。 <p>自己意識とは【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己意識について説明できる。 2. リフレーミングのスキルを身に着ける。 <p>事前学習：教科書の 24～31 ページを読んでおく。 事後学習：課題テーマについてまとめる。</p>
9/8	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>印象形成と対人認知【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 印象形成に関わる要因を列挙できる。 2. ステレオタイプについて説明できる。 3. 対人認知に関わる要因を列挙できる。 <p>事前学習：教科書 32～33、98～99、106～108 ページを読んでおく。 事後学習：課題テーマについてまとめる。</p>
9/15	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>対人魅力・対人葛藤 【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対人魅力に関わる要因を列挙できる。 2. 対人葛藤について説明できる 3. 親密な関係の崩壊について説明できる。 4. 葛藤への対処について説明できる。 <p>事前学習：教科書の 112～116 ページを読んでおく。 事後学習：課題テーマについてまとめる。</p>
9/22	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>集団の中の人間① 【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的アイデンティティについて説明できる。 2. 内集団ひいきについて説明できる 3. 集団形成に関わる 4 つの懸念について説明できる。 4. 同調について説明できる。 5. 集団規範と集団圧力について説明できる。 6. 逸脱行為に影響する要因について説明できる。 <p>事前学習：教科書の 80～83、128-134～137 ページを読んでおく。 事後学習：課題テーマについてまとめる。</p>

9/29	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>集団の中の人間② 【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.集団意思決定について説明できる。 2.集団極化について説明できる。 3.集団的浅慮について説明できる。 4.ブレインストーミング、コンセンサス法を用いた意思決定ができる。 6 リーダーシップについて説明できる。 <p>事前学習：教科書の 142～147 ページ、148～149 ページを読んでおく。 事後学習：課題テーマについてまとめる。</p>
10/20	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>コミュニケーション【双方向授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.コミュニケーションの構成要素を列挙できる。 2.コミュニケーションの過程について説明できる。 3.アサーションについて説明できる。 4.Computer-mediated communication(CMC)の特性について説明できる。 5.CMCにおけるコミュニケーションの正確性について説明できる。 <p>事前学習：自身がコミュニケーションを円滑に行うために心がけていることについて振り返る。コンピュータメディアを通じた画面上のコミュニケーションにおいて気を付けるべきことをまとめる。 事後学習：Webclassでの確認テストに取り組み、結果のフィードバックをうける。</p>
10/27	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	<p>ビブリオバトル(1) クラスマッチ 【プレゼンテーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.人間関係に関わる題材を扱った本の中から、各自が伝えたいことに応じて適当な本を選択できる。 2.ビブリオバトルを行うことで論理的思考能力を身に着けることができる。 3.質疑応答やジャッジを通して自分自身の発表に関する改善点を挙げるができる。 <p>事前学習：コンテンツシートを読み返し、クラスマッチに備える。 事後学習：今回のプレゼンテーションにおける改善点をまとめる。</p>

11/10	木	2	教養教育センター 心理学・行動科学分野	田沢光正非常勤講師 相澤 文恵 教授	地域保健における人間関係 1.住民の健康に寄与する多様な人々の存在を説明できる。 2.健康に寄与する多様な人々との人間関係を説明できる。 事前学習：任意の市町村ホームページを閲覧し、地域保健のシステムについて確認する。 事後学習：課題テーマについてまとめる。
11/17	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	ビブリオバトル(2) ファイナルマッチ 【プレゼンテーション】 1.他の選択科目のクラスマッチにおいて選出されたバトルとビブリオバトルを行うことで、幅広い書籍情報を共有できる。 2.説得力のある話し方について評価できる。 3.発表、質疑応答、ジャッジに積極的に参加することができる。 4.自分自身の今後の発表への改善点をあげることができる。 事前学習：スタナビの「ビブリオバトル」個所を読んでおく。 事後学習：ファイナルマッチでチャンプ本となったビブリオの魅力についてまとめてWebClassに提出する。
11/24	木	2	心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	チーム医療における人間関係 1.チーム医療における医療従事者間の人間関係について説明できる。 まとめ 1.これまでの講義で得た知識と経験をもとに、自らの生活における良好な人間関係を構築する方策について説明できる。 事前学習：チーム医療が必要とされるようになった社会背景について考える。 事後学習：科目全体を復習し、良好な人間関係を構築する方法を確認する。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	カラー版徹底図解 社会心理学	山岸俊男監修	新星出版社	2011
推	健康の謎を解く ストレス対処と健康保持のメカニズム	アーロン・アントノフスキー 著	有信堂	2008

・ 成績評価方法

提出物（60％）、ビブリオバトルへの取り組み（20％）、確認テスト（20％）で評価する。評価基準は初回講義時に提示する。

・ 特記事項・その他

本科目では、各回の講義で人間関係を理解するために必要な社会心理学の概念を双方向授業によって学ぶ。方法については感染予防を鑑みて状況に応じて適宜変更する。事後学習として各回講義の最後に提示する課題テーマについてまとめ、WebClass に提出する。解説とフィードバックは次回講義の初めに行う。

WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果は WebClass にてフィードバックする。

一部「医療と法律」「パーソナリティ心理学」「医療と物語」と横断的にビブリオバトルを行う。ビブリオバトルにおいてはコンテンツシートの提出を求める。ビブリオバトルではグループでのプレゼンテーションを予定しているが、感染予防対策を徹底し、状況に応じて方法を適宜変更することがある。

シラバスに記載されている次回の講義内容を確認し、教科書・配布資料を用いて事前学習、事後学習をおこなうこと。各講義に対する事前学習および事後時間はそれぞれ最低 30 分とする。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (Safari pro FJY-00014)	1	講義資料の提示
講義	書面カメラ・DVD プレーヤセット	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ型 PC (EPSON MR4800E)	1	講義資料の作成